

11

5年

※年度末の学習内容が指導しきれなかった場合には、次年度に送ることも考えられる。

※上級学年に指導内容を送った場合には教員間でしっかりと引継ぎをすること

単元名・ページ数・学習目標	時	配分	学習活動	評価規準
毛筆学習のはじめに (P1-4) ◎【知識及び技能】(3)エ(イ) ○文字を書くことに適した姿勢と、筆や鉛筆などの筆記具の持ち方を理解することができる。 ○毛筆学習で扱う用具の名称と扱い方、片づけ方を理解することができる。	適宜	適宜 適宜	○教師の実演や、教科書に示されている写真、絵を見たりしながら、書字に適した姿勢と筆記具の持ち方を確認し、その型をとる。 ○毛筆学習で扱う用具の名称と扱い方、片づけ方を確認し、その型をとる。 ○各学習において、適宜確かめる。	【知識・技能】 毛筆学習に適した姿勢や筆記具の持ち方、用具の名称や扱い方、片づけ方があることを理解している。 【思考・判断・表現】 合い言葉や写真を見て、適切な姿勢や持ち方、扱い方や片づけ方を考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 文字を丁寧に書くために、適切な姿勢や持ち方、扱い方や片づけ方を実践しようとしている。
いろいろな筆記具 (P5) ◎【知識及び技能】(3)エ(ウ) ○様々な筆記具の特徴を理解し、目的・場面に適した筆記具を選んで書くことができる。	適宜	適宜	○様々な筆記具で書かれた文字を確認しながら、それぞれが持つ特徴を理解する。 ○筆記具の特徴を意識して、目的・場面に適した筆記具を選んで書いてみる。	【知識・技能】 筆記具ごとに、特徴があることを理解している。 【思考・判断・表現】 目的・場面に応じて、どの筆記具が適しているかを考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 筆記具の特徴を意識して、日常の場面でも生かそうとしている。
一 四年生で学習したこと (P6-9) ◎【知識及び技能】(3)エ(ア) ○四年生で学習したことを想起して書くことができる。	2	1 1	○四年生で学習したことを振り返り、それ意識して文字を書く。 ○四年生で学習したことを生かして、詩を書く。	【知識・技能】 四年生で学習したことを理解している。 【思考・判断・表現】 四年生で学習したことをどのように活用すればよいのかを考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 四年生で学習したことを活用して文字を書こうとしている。
学習の進め方 (P10-13) ○書字の課題を、自分で考えたり他者と話し合ったりして解決する書写学習の方法を理解することができる。	適宜	適宜	○書写学習の一連の流れを知り、自学自習や他者との意見交換を通して、効果的に学習する方法を理解する。 ○各学習において、適宜確かめる。	【知識・技能】 書写学習に適した学習方法があることを理解している。 【思考・判断・表現】 自分の課題がどのように学習することで解決できるのかを考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常生活でも整った文字を書けるように、「学習の進め方」を実践しようとしている。
二 「による」の筆使い (P14-16) ◎【知識及び技能】(3)エ(イ) ○「による」の筆使いを理解して書くことができる。	3	3	○毛筆で「道」を書いて、「による」の筆使いを理解する。 ○「による」の筆使いを生かして、「建造」「通過」「迷路」「起」を硬筆で書く。	【知識・技能】 「による」の筆使いがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 短い画の方向と筆圧の変化を考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 「による」の筆使いを意識して、硬筆に生かそうとしている。
消しゴムはんこを作ってみよう (P17) ○消しゴムで判子を作る。	適宜	適宜	○消しゴムに、好きな文字を彫って判子を作る。	【知識・技能】 消しゴム判子の作り方を理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 判子作りに意欲的に取り組もうとしている。

単元名・ページ数・学習目標	時	配分	学習活動	評価規準
三 ほ先の動きと点画のつながり (P18-21) ◎〔知識及び技能〕(3)エ(イ) ○穂先の動きと点画のつながりを理解して書くことができる。	4	4	○毛筆で「あこがれ」を書いて、穂先の動きと点画のつながりを理解する。 ○穂先の動きと点画のつながりを意識して、「ゆず」「うめ」「かき」を硬筆で書く。	【知識・技能】 仮名文字は穂先の動きと点画のつながりに注意して書く必要があることを理解している。 【思考・判断・表現】 穂先の動きと、点画のつながりがどの部分に表れているのか考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 穂先の動きと点画のつながりを意識して、硬筆に生かそうとしている。
四 点画のつながりと筆順 (P22-25) ◎〔知識及び技能〕(3)エ(イ) ○筆順に注意し、点画のつながりを理解して書くことができる。	3	3	○毛筆で「飛ぶ」を書いて、点画のつながりと筆順の関係性を理解する。 ○点画のつながりと筆順の関係性を意識して、「独立」「対応」を硬筆で書く。	【知識・技能】 点画のつながりと筆順には関係性があることを理解している。 【思考・判断・表現】 筆順を確かめて、点画のつながりが表れている部分がどこか考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 点画のつながりと筆順の関係性を意識して、硬筆に生かそうとしている。
五 文字と行の中心 (P26-29) ◎〔知識及び技能〕(3)エ(ア) ○用紙に対する文字と行の中心の整え方を理解して書く。	3	3	○毛筆で「平和」を書いて、用紙に対する文字と行の中心の整え方を理解する。 ○文字と行の中心の整え方を意識して、「査」「報」「弁」を硬筆で書く。	【知識・技能】 用紙に対する文字と行の中心を整えて書く必要があることを理解している。 【思考・判断・表現】 文字の中心と行の中心がどこか考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 用紙に対する文字と行の中心の整え方を意識して、硬筆にも生かそうとしている。
六 文字の大きさと配列 (P30-33) ◎〔知識及び技能〕(3)エ(ア) ○用紙に対する文字の大きさと配列の整え方を理解して書くことができる。	4	4	○毛筆で「考える子」を書いて、用紙に対する文字の大きさと配列の整え方を理解する。 ○文字の大きさと配列の整え方を意識して、「快い風」「手編み」を硬筆で書く。	【知識・技能】 用紙に対する文字の大きさと配列に注意して書く必要があることを理解している。 【思考・判断・表現】 文字の大きさと配列を考える部分はどこか考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 用紙に対する文字の大きさと配列を考えて硬筆に生かそうとしている。
七 五年生のまとめ (P34-37) ◎〔知識及び技能〕(3)エ(ア)(イ)(ウ) ○五年生で学習したことを振り返り、文字を書いて確かめることができる。	3	2 1	○「適」「ただいま」「必要」などをなぞったり書いたりして、五年生で学習した文字の書き方を確かめる。 ○五年生で学習したことに気をつけて、「枕草子」と「大造じいさんとガン」の一節を書く。	【知識・技能】 五年生で学習したことを理解している。 【思考・判断・表現】 何を意識してそれぞれの文字を書けばよいのか考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 五年生で学習したことを活用して書こうとしている。
資料編 書写の資料館 その一 都道府県名を書こう (P38-42) ◎〔知識及び技能〕(3)エ(ア)(ウ) ○47都道府県名を漢字で書くことができる。	適宜	適宜 適宜	○これまでに学習したことに注意して、47都道府県の名称を漢字で書く。 ○これまでに学習したことと自分の課題を確認し、都道府県名の漢字のまとめ書きをする。	【知識・技能】 これまでに学習した漢字の書き方を活用する必要があることを理解している。 【思考・判断・表現】 学習した書き方をどう活用すればよいか考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の場面でも、学習した漢字を積極的に書こうとしている。
その二 メモの取り方 (P43-44) ◎〔知識及び技能〕(3)エ(ア)(ウ) ○文字を速く書く工夫の仕方を理解して、話を聞きながらメモを取ることができる。	適宜	適宜	○メモを取る時に気をつけることを確かめる。 ○メモの例を確かめて、文字を速く書く工夫の仕方を理解する。 ○メモを取る時に気をつけることと、文字を速く書く工夫の仕方を意識して、実際の様々な場面でメモを取る。	【知識・技能】 メモを取る時に気をつけるべきことがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 速く書くための工夫はどの部分にあるのか考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習したことを意識して、実際の様々な場面でも生かそうとしている。

単元名・ページ数・学習目標	時	配分	学習活動	評価規準
その三 感謝の気持ちを伝えよう (P45-46) ◎【知識及び技能】(3)エ(ア)(ウ) ○これまでに学習したことを生かして、相手意識と目的意識をもって書くことができる。	適宜	適宜	○メッセージカードの作成例を確かめて、気持ちを伝えたり、読む相手を意識した工夫の仕方を考える。 ○これまでに学習したことを生かして、相手への贈り物を制作する。	【知識・技能】 気持ちを伝えたり、読む相手を意識した工夫の仕方があることを理解している。 【思考・判断・表現】 気持ちを伝えたり、読む相手を意識した工夫の仕方を考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習したことを、実際に制作する場で積極的に生かそうとしている。
なぜ？なに？書写の不思議 かたかなはどうやって生まれたの？ (P47) ○片仮名の成り立ちを知る。	適宜	適宜	○片仮名のもとになった漢字を確かめる。 ○資料写真などを見て、片仮名が日本で古くから伝わる文字文化であることを知る。	【知識・技能】 片仮名は、漢字をもとにして日本で生まれた文字であることを理解している。 【思考・判断・表現】 片仮名と、そのもとになった漢字との共通点を考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 片仮名のもとになった漢字を調べようとしている。
その四 アルファベットとローマ字 (P48-49) ◎【知識及び技能】(3)エ(ア)(ウ) ○アルファベットとローマ字の書き方を理解して書くことができる。	適宜	適宜	○ローマ字表を確かめたり、大文字と小文字のアルファベットのなぞり書きなどをして、アルファベットとローマ字の書き方を理解する。 ○アルファベットとローマ字の書き方を意識して、自分の名前や地名などをローマ字で書く。	【知識・技能】 漢字や仮名などと書き方が異なることを理解している。 【思考・判断・表現】 ローマ字の五十音の表記の法則性を考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 アルファベットとローマ字の書き方を意識して、様々な言葉や名称をローマ字で書こう
その五 ひらがな・かたかなの表 (P50) ◎【知識及び技能】(3)エ(ア)(ウ) ○平仮名・片仮名の五十音を、筆順や書き方に注意して書くことができる。	適宜	適宜	○これまでに学習したことに注意して、平仮名・片仮名を書く。	【知識・技能】 これまでに学習した平仮名・片仮名の書き方を全て活用する必要があることを理解している。 【思考・判断・表現】 学習した書き方をどう活用すればよいか考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習場面や日常でも、それぞれの平仮名、
その六 書きぞめをしよう (折りこみ①) ◎【知識及び技能】(3)エ(ア)(イ)(ウ) ○書き初めに適した姿勢を理解して書くことができる。 ○五年生で学習したことを生かして、書き初めを書くことができる。	3	1 1 1	○書き初めに適した姿勢を理解し、その型をとる。 ○五年生で学習したことに気をつけて「大切な命」の試し書きをし、自分の学習課題を確認する。 ○五年生で学習したことから自分の学習課題に気をつけて、「大切な命」を練習する。 ○五年生で学習したことから自分の学習課題を確認し、「大切な命」のまとめ書きをする。	【知識・技能】 「書き初め」という伝統文化があることを理解している。 【思考・判断・表現】 学習したことをどう活用すればよいか考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習したことを活用して、書き初めをしようとしている。
その七 読みやすく書こう (折りこみ②) ◎【知識及び技能】(3)エ(ア)(ウ) ○掲示物が読みやすくなる書き方を理解して書くことができる。	適宜	適宜	○発表資料の例を確かめて、掲示物が読みやすくなる書き方を理解する。 ○掲示物が読みやすくなる書き方を意識して、実際に資料をまとめてみる。	【知識・技能】 掲示物が読みやすくなる書き方があることを理解している。 【思考・判断・表現】 読みやすく書くために、どこを工夫すればよいか考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 読みやすくなる書き方を、実際の資料制作の場にも積極的に生かそうとしている。
その八 はがき・原稿用紙・手紙の書き方 (折りこみ③) ◎【知識及び技能】(3)エ(ア)(ウ) ○葉書、原稿用紙、手紙の書式を理解して書くことができる。	適宜	適宜	○葉書、原稿用紙、手紙の書式を確かめて、理解する。 ○葉書、原稿用紙、手紙の書式と、これまでに学習したことを意識して、実際に書いてみる。	【知識・技能】 葉書、原稿用紙、手紙に書式があることを理解している。 【思考・判断・表現】 これまでに学習したことをどう活用すればよいか考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 書式を意識し、実際の場で生かそうとしている。

単元名・ページ数・学習目標	時	配分	学習活動	評価規準
その九 五年生で学習する漢字 (P51-53) ◎【知識及び技能】(3)エ(ア)(ウ) ○五年生で学習する漢字を確かめることができる。	適宜	適宜	○これまでに学習した漢字の書き方に注意して、五年生で学習する漢字を書く。	【知識・技能】 これまでに学習した漢字の書き方を理解している。 【思考・判断・表現】 それぞれの漢字に、どの書き方を活用するか考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習場面や日常でも、それぞれの漢字を意識して使おうとしている。